

おわりに

◆ 先日、新幹線などに乗って、移動しました。当然、感染リスクに緊張しながら、出来るだけの予防をしながらです。人に近寄らない、何かに触つたらアルコール消毒など...

JRも乗客減少で、平日の特急などガラガラです。マスク・ふき取り消毒はもちろん、中の空気も「6分から8分間隔で自動換気」と車内放送がありました。どこも苦心されています。

街を移動しながら気になるのは、不特定多数が利用する場...例えば会場の切符販売や受付窓口、レジ係などは、女性が多い事。あるいは、そういう場の掃除担当に、二年配の方や女性が多い事です。しかも、心細そうなお様子。

今回お話を伺った公共交通機関の運転士さんたちも、平均年齢高めと感じました。

大事にしましよ、現場を回して下さっている方々を、大事にしましよ！お陰様で成りたつ私たちの生活です。

駅構内を掃除して回っておられた女性。



◆ 今年は長い梅雨でした。

庭の雑草が気になりながら雨を眺め、朝のウォーキングでは稲の成長を伺い、電気柵の電圧を計りました。

日照不足と言われている早稲のハナエチゼンは、どんな出来高でしょう。梅雨明けの日の光は、中稲のコシヒカリを美味しくさせてくれるでしょうか？背丈が高いので、今後の台風が気になるわ...などと、日々の変化に一喜一憂です。

猪は、豚コレラで減少したかと思いましたが、なんのなんの、すっかり田圃を荒れています。猿軍団は、子ザルも増えています。畑のキュウリや山際の柿を食べ尽くします。鹿も増えて来て、木の皮を食べて剥がします。

新型コロナウイルス禍の下、農業振興も、鳥獣害対策もまったなしです。



猪が入って、稲を踏み荒らしています(-_-)



うちの窓の外をふと見たら、子熊...(-_-)

◆ 新型コロナ禍は、早く終息してほしいもの。

この病気の厄介なのは、初期症状が「発熱」だったり「だるさ」だったり「味覚障害」だったり、人それぞれで見分けにくい点。先の見通しが立ちにくい点、そして、人の関係を分断する点です。

ただ、仮にお隣さんが感染したとしても、結局は自分自身の、「飛沫感染、接触感染、エアロゾル感染の予防」で、「マスク、手洗い、換気」等を愚直にやるしかありません。「正しく恐れる」です。油断なく三密を避け、やるべきことはやる...しかないみたいです。

また、地域のイベント等が減り、特に平日、在宅の方々が増えました。「電話での売込みや訪問販売、勧誘が増えた。」との声も伺っています。生活の変化に伴う、課題の変化も見逃さないよう頑張ります。

県政報告

★ ラジオ「丹南FM79.1」
「県議会 夢 通信」
8月22日(土) 午後4時～
(再) 23日(日) 午前10時～

細川かをり県政報告 R2.8
発行：福井県議会議員 細川かをり
事務所：越前市村国1丁目2-11
TEL・FAX 42-5888

細川かをり県政報告

第55号

公共交通1：京福バス会社を尋ねて



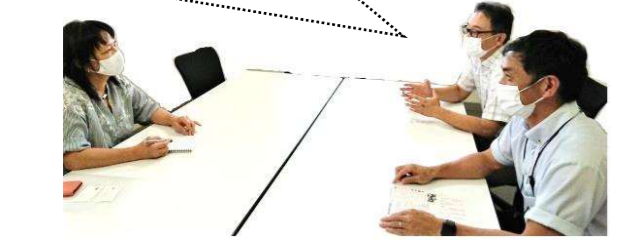
運転席。シートで覆って、お互いの飛沫感染防止



一番前の席は不使用に。
ちょうど従業員の方々のPCR検査終了間際でした。感染者の方と、マスクをとって15分以上接触があった方15名に加え、2～3分接触の218名も検査し、全員陰性。結果、運転士さん全員、陰性でした(^_^)v

多くの京福の社員の方々が、差別や誹謗中傷を受けておられ、心を痛めておられました。そんな中、日頃バスを利用されている方々からは、励まされて力づけられているとのこと。画像のような日頃行っておられる実際の対策を知れば、わかりますよね。

「運転士さんに罪はないです。責められることのないように願っています。バスは私たちの生活に、なくてはならないものです。どうか頑張ってください。」という内容のお葉書をいただいたり、スクールバス利用の児童達から寄せ書きをいただき、涙しています。社内で廻覧し、励みにしています。



子どものころ私は、バスっ子でした。両親の勤めの関係で、保育所・小学校は路線バス通い。ピアノや習字の塾もバス通い。(初めの頃は「ボンネットバス」：(笑)車掌さんもおられて、とっても親切にしてくださいました。我が子たちにしてもそうです。スクールバスやタクシーに、たいへんお世話になりました。



お客様用アルコール消毒液と、手すりなどにつかまる際の使い捨てポリ手袋。バスでこのサービスは初めて見ました。(@_@)



丁寧な丁寧なアルコール消毒

「バス路線かえろー!」、「家の前を通るなー!」といった苦情もあったそうです。また、会社の営業マンも「お前、PCR検査受けたのか?」と言われてたり、社員の高齢家族の方もデイサービスで言われ、さらに家族が「陰性だという証明が欲しい」と職場等から言われ、仕事に行けないケースもでてきているとのこと。

誹謗中傷と教育

誹謗中傷・差別・デマといった話を聞く
と、私はがつくりと、情けない気持ちにな
ります。教員だったので、「人としての教育
がもつと必要だった」という反省の気持ち
も起ります。

法に定められた教育の目的は、「テスト
の点数を上げること」ではなく、「人格の
完成」で、「心身ともに健康な国民の育
成」、その目標のひとつが「正義と責任、男
女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる
こと。」だからです。

教員を辞めて社会に出てから

「一般社会が、こんなにも誤解や邪推、偏
見、憶測、もしかしたら悪意や魂胆の
ある情報が流されているものなのか。」
と痛感することがあまりに多く、今回のこ
ともまさにそうです。

情報氾濫の世の中で、騙されたり誤つ
た方向に流されたりしないようにするこ
は、ただ素直に「人の話を聞く」というだけ
では不十分。

「一つの情報を鵜呑みにせず、多角度
から情報を得て、自分で判断せよ」
「裏付けが大事」

という情報教育IIメディアリテラシー教育
が大事です。

タブレット端末を児童生徒に持たせ、
「教育を行うならばなおの事、これは必
須です。」
そこを議会で教育長に問いました。

公共交通2：タクシー会社を尋ねて

いろいろな事情のお客様がお
られます。
人工透析の方 お産の女性
病院の先生も夜中に送ります。
列車が止まったので迎えに行く
ケースもあります。
公共交通機関です。何かあ
たら 出なあかん と思ひ、赤字
でも走ります。

運転士さんには高齢の
方が多く、会社も怖いと
感じています。でも…

5月 新型コロナウイルス感染拡大による影響で
鯖江市のタクシー会社が廃業に追い込まれました。
感染拡大の第一波の収束は、経営の回復に合わ
ず「人様に迷惑をかけないように」と、70年あま
りの歴史に幕を下ろされたとのこと…。
やはり心配になって、越前市のタクシー会社を尋
ね お話を伺いました



でも 公共交通にも限度があります。
地方の公共交通のあり方を みんなで
考えよき時期と感しています。
(会社 NPO 地域で運営…
あるいは当番制など)

※ 前列・後列の間にはシートが張られ…おや！？
間にあるのは小さく可愛い扇風機です！！
十分な換気に努めておられるのだなと感心しました。

教育長 ご指摘の通り、情報教育において情報
を鵜呑みにせず批判的に捉えていく「クリティ
カルシンキング」は非常に重要です。

新学習指導要領でも明記されており、今、
全ての教科の中で学習しております。例えば
国語「情報の信頼性の確かめ方」
算数「結論の妥当性についての批判的な考察」
理科「情報通信ネットワークを介して得られた
情報は適切なものばかりでないこと」
などを学んでおります。

これから、1人1台のタブレットが整備され
ますが、議員ご指摘の能力・スキルを養う情報
教育をしっかり進めてまいりたいと考えており
ます。

子どもソーシャルディスタンス

古今東西、スキンシップは乳幼児期の子育
ての基本であり、人との関りは子ども情緒
の安定に、何よりも必要です。

また、「遊び」も心身の成長には欠かせない
重要なことです。遊ぶことで子どもは頭を使
い、多くの力を発達させ、ルールを守ることの
大切さや集団行動、コミュニケーション能力な
どの社会性が身につきます。

これまでも子ども同士の交流活動や自然
体験の減少が問題視されてきていますが、こ
の感染症対策でソーシャルディスタンスをと
らなくてはならないということが、成長途上
の子供たちの健全育成・心身の発達を阻害す
るのではないかと、私は心配でなりません。

「人を避ける子、人の気持ちの読み取れない
子になりはしないか…」
どうカバーするのか伺いました。

【健】 今般、新型コロナウイルス感染症の下で
は、密集した屋内活動はやっぱり制限せざ
るを得ない。

各園では、園庭等を活用した外遊びの時
間をできるだけ増やすなど、なるべく集団に
よる活動が確保されるように工夫しながら
対応していると聞いている。

県では、保育所(園)等からの相談を、直
接、感染症の専門家の方に聞いていただく
という仕組みを作りたい。

教

各学校においては、感染症防止のため、マ
スクをしなければ、子どもたち同士で話し
合う協働学習や給食時のおしゃべり等がで
きない状態になっている。

ソーシャルディスタンスを保った遊び、例え
ばなわとびをする等、学校の新しい生活様
式に柔軟に対応し、楽しい学校生活を送つ
ている。

今月、「感染症対策に関する相談窓
口」は、看護協会に委託し設置されまし
たが、「子供たちの健全育成」という観点
からの答えとしては、両方とも不十分な
答えと思います。でも、現状では「こま
め」なのでしょう。議会では

「本来ならば、手をつなぐ等、スキンシッ
プをとりながら学校生活を送るもので
あるが、今はやむを得ずソーシャルディ
スタンスを取らなければいけないのだ」
ということを、子どもたちにつかり説
明することを強く要望しました。

バス会社も タクシー会社も
先日乗ったJRも「接触感染防
止の消毒」「飛沫感染防止のマス
クや仕切り」「エアロゾル感染防
止の換気」をそれぞれ徹底して
おられました。

経営立場の方が
らは「乗務員を
守らねばという
意思も強く感じ
ました。



公共交通機関は、どこも客足激
減の経営ピンチで、現状
「それぞれの体力で、どこまでしの
げるか。」
といった状況です
私たちの社会生活にとって必要な
機関ですから、存在意義や有り様
を再確認し、応分の負担が出来るよ
う県に訴えていきたいと思ひます。